

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

I N P E X（注）、石油資源開発、出光興産、E N E O S ホールディングス、コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、沖縄電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯、静岡ガス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）国際石油開発帝石が商号を変更した（2021 年 4 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	20
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 17 名（所属先 14 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、フェア・ディスクロージャーにおいて項目追加を行った。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.6 点（昨年度 63.9 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度 7.2 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 70.2 点（昨年度 69.3 点）、電力・ガス部門（16 社）が 62.8 点（昨年度 62.2 点）となった。さらに業態を細分化し評価点の高い順で見ると、石油 71.7 点（昨年度 71.0 点）、ガス 68.1 点（昨年度 68.9 点）、鉱業 68.0 点（昨年度 66.7 点）、電力 60.4 点（昨年度 59.1 点）となった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%（昨年度 69%）、説明会等が 69%（昨年度 63%）、フェア・ディスクロージャーが 65%（昨年度 76%）、コーポレート・ガバナンス関連が 58%（昨年度 55%）、自主的な情報開示が 61%（昨年度 60%）となり、2 項目（下記⑤⑥の(a)、⑦を参照）の追加を行ったフェア・ディスクロージャーの低下が目立った。

④ 評価項目について見ると、平均得点率が80%以上は次の1項目のみであった。

- ・ 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」(平均得点率 86%) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 90% 台 6 社・80% 台 14 社・70% 台 1 社)

⑤ 一方、次の4項目は、平均得点率が50%台となり低水準であった。

- (a) 「気候変動、疫病、自然災害や市況等に関するリスクと機会について十分に開示されていますか」(平均得点率 51%) (得点率 : 40% 台 8 社・50% 台 11 社・60% 台 2 社))
- (b) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」(平均得点率 57% [昨年度同率]) (得点率 : 50% 台 15 社・60% 台 5 社・70% 台 1 社)
- (c) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」(平均得点率 59% [昨年度 55%]) (得点率 : 20% 台 1 社・40% 台 1 社・50% 台 9 社・60% 台 6 社・70% 台 4 社)
- (d) 「事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等」(平均得点率 59% [昨年度同率]) (得点率 : 40% 台 2 社・50% 台 10 社・60% 台 7 社・70% 台 2 社))

⑥ 非財務情報関連の3項目(フェア・ディスクロージャー、コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示の中の各1項目)については次のとおりとなった。

- (a) 「気候変動、疫病、自然災害や市況等に関するリスクと機会について十分に開示されていますか」(平均得点率 51%) (得点率 : 40% 台 8 社・50% 台 11 社・60% 台 2 社))
- (b) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」(平均得点率 57% [昨年度同率]) (得点率 : 50% 台 15 社・60% 台 5 社・70% 台 1 社)
- (c) 「国内外の動向を踏まえ、統合報告書を中心にして非財務情報(ESG 情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 62% [昨年度 61%]) (得点率 : 30% 台 1 社・50% 台 8 社・60% 台 9 社・70% 台 3 社)

⑦ なお、フェア・ディスクロージャーの追加項目の一つである、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供手段(説明会、決算説明会の資料・質疑応答等)を確保していますか」については、平均得点率 70% (得点率 : 60% 台 11 社・70% 台 8 社・80% 台 2 社) となった。これに関連して、リアルと配信の併用や、経営陣のリモートによる面談等を評価する声が寄せられるとともに、説明会の質疑応答全体のウェブ掲載を望む声があった。また、バーチャル見学会の実施を期待する声もあった。

(2) 全体の上位3企業の評価概要

第1位 日本瓦斯(ディスクロージャー優良企業[初受賞]、総合評価点 76.4 点[昨年度比+0.9 点]、昨年度第2位)

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等が第1位(得点率(以下省略) 83%)、説明会等が同得点第1位(81%)、フェア・ディスクロージャー(71%)、コーポレート・ガバナンス関連(72%)、自主的情報開示(69%)が第2位となった。自主的情報開示の順位および得点率が、昨年度と比べ大きく上昇した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができること、経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていること」および「IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができること」が共に最も高い評価となったことか

ら、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣やIR部門が共に積極的なIR姿勢を継続していること、経営トップとCFOの説明分担が適切であることを評価する声が寄せられた。

- ③ **説明会等**においては、「説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」が最も高い評価となり、「決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報（例えば、前提条件、感応度、主要費用等）が、十分に記載されていること」も評価された。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、ミーティングでのレベルの高いディスカッションや定量情報の開示が充実していることを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供手段（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」が評価された。なお、説明会動画のウェブサイトでの公開を評価するとともに、コロナ収束後もリアルと配信の併用を希望する声があった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）を十分に説明していること」が最も高い評価となった。なお、長期的なビジョンを踏まえた定量目標の設定やコミットメントを期待する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」が最も高く評価された。また、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書を中心にして非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」の得点率も昨年度に比べ大幅（13ポイント）に上昇した。これらの結果、この分野において第2位（昨年度第12位）となった。これらに関連して、統合報告書の内容、施設見学会等の充実を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 ENEOSホールディングス（総合評価点 75.8点〔昨年度比－3.9点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**（74%）、**自主的情報開示**（76%）が第1位、**説明会等**が同得点第1位（81%）、**経営陣のIR姿勢等**が第3位（76%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（68%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野の得点率が下がり、特に、**経営陣のIR姿勢等**の低下が大きかった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができること、経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていること」および「IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができること」が共に昨年度比で得点率を大きく下げた。これらに関連して、ESG説明会の開催など積極的なIR姿勢を評価する一方で、幅広いセグメントに関する情報開示とエンゲージメントの方法が今後の課題との声があった。また、経営陣による個別の投資家訪問を一層期待する声、市場の考え方を経営や開示にどのように反映させていくのか注目したいとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報（例えば、前提条件、感応度、主要費用等）が、十分に記載されていること」が最も高い評価となり、「説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」も評価された。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、取材対応での補足説明や定量情報の充実を評価する声や継続的なセグメント別開示が有用との声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「気候変動、疫病、自然災害や市況等に関するリスクと機会について十分に開示されていること」が他社と共に第1位となった。一方で「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」および「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供手段（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」は平均得点率に達しなかった。これらに関連して、説明会の音声公開や質疑応答ログを評価する一方で、取材・説明会における音声管理の向上や、質疑応答の全問開示を求める声があった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していること」が最も高い評価となり、この分野において第1位となった。なお、業績連動報酬を分かりやすく説明してほしいという声や資本効率に関してセグメント別の説明の充実を期待する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書を中心にして非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となり、この分野において第1位となった。これに関連して、ESG 説明会の積極的な開催や統合報告書の内容を評価する声が寄せられた。

第3位 大阪瓦斯（総合評価点 71.7 点〔昨年度比+2.3 点〕、昨年度第5位）

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**が第3位（71%）、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）、**説明会等**（77%）が第5位、**フェア・ディスクロージャー**（67%）、**自主的情報開示**（67%）が同得点第6位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG 等について有意義なディスカッションができること、経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていること」が昨年度比で順位および得点率共に上昇した。これに関連して、定期的なスモールミーティングの開催、説明会における経営トップの明確な説明や IR 対応を評価する声が寄せられた。なお、資本コストの議論を含めた情報開示の改善に期待する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報（例えば、前提条件、感応度、主要費用等）が、十分に記載されていること」が評価された。これに関連して、開示資料は詳細で分析に役立ち、説明も簡潔であると評価する声が寄せられた。なお、海外事業の情報開示のさらなる拡充を期待する声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること、ウェブサイトで有用な情報が遅滞なく行われていること」が高く評価された。「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供手段（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」については平均得点率にとどまったが、これに関連して、説明会をリアルとリモートの併用で実施していることを評価する声が寄せられた。なお、説明会の内容をウェブ掲載することを期待する声もあった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していること」が第1位と僅差の第2位となった。これに関連して、ROIC を軸とした経営の方向性を評価する声があるとともに、中期計画におけるキャッシュフローの予想をより明確にすべきとの指摘もあった。なお、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）を十分に説明していること」については、第1位と12ポイント差が開いた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」および「国内外の動向を踏まえ、統合報告書を中心にして非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」は共に平均得点率を上回ったものの、いずれも第6位の評価にとどまった。これらに関連して、技術説明会の開催や研究開発の進捗状況の説明充実を望む声があった。また、ESG 開示が進んでいることを評価しつつ、統合報告書の発行を期待する声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 九州電力（総合評価点 68.1 点〔昨年度比+9.3 点〕、同得点第6位〔昨年度第14位〕）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第1位（74%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（75%）、**説明会等**が第9位（71%）、**自主的情報開示**が第10位（63%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第11位（58%）となった。特に、**説明会等**については得点率が昨年度比で大幅（20ポイント）に上がり、総合評価点および順位の上昇につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG 等について有意義なディスカッションができること、経営陣が積極的に市場からのエンゲ

ージメントを受け入れる意欲を持っていること」および「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR 担当者等と有益なディスカッションができること」はいずれも、昨年度比で順位および得点率を上げた。これに関連して、継続的なスモールミーティングの開催、説明会等での経営トップの積極的な対応や、コロナ禍の中でもリモート機能を活用して対話の機会を設けた点を評価する声が寄せられた。

- ③ 説明会等においては、「決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていること」および「説明会やインタビュー等（ESG 情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」は共に、昨年度比で得点率を大きく上げた。一方で、国内電気事業の収益性改善策が明らかでない、業績予想の変動が大きいとの指摘もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供手段（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」が最も高く評価された。これに関連して、コロナ収束後も、決算説明会においてリアルと配信の併用、質疑応答全体のウェブ掲載を期待する声があった。

（参考）部門別の第 1 位企業

【石油・鉱業部門】

E N E O S ホールディングス（総合評価点 75.8 点、全体第 2 位）

【電力・ガス部門】

日本瓦斯（総合評価点 76.4 点、全体第 1 位）

以 上

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (エネルギー:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位	
			評価項目2 (配点 30点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目3 (配点 10点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 20点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点		順位
1	8174 日本瓦斯	76.4	25.0	1	16.2	1	7.1	2	14.4	2	13.7	2	2
2	5020 ENFOSホールディングス	75.8	22.8	3	16.2	1	6.8	3	14.8	1	15.2	1	1
3	9532 大阪瓦斯	71.7	22.1	5	15.3	5	6.7	6	14.2	3	13.4	6	5
4	5021 コスモエネルギーホールディングス	71.3	22.9	2	15.4	4	6.3	15	13.3	4	13.4	6	4
5	1605 INPEX	68.2	21.4	7	13.5	12	6.8	3	12.9	6	13.6	3	7
6	5019 出光興産	68.1	21.3	9	13.5	12	6.5	11	13.2	5	13.6	3	12
6	9508 九州電力	68.1	22.5	4	14.1	9	7.4	1	11.5	11	12.6	10	14
8	1662 石油資源開発	67.8	20.4	13	15.5	3	6.7	6	11.8	9	13.4	6	9
9	9531 東京瓦斯	67.3	20.7	12	15.2	6	6.8	3	11.1	12	13.5	5	3
10	9502 中部電力	65.8	21.6	6	13.3	15	6.7	6	12.0	8	12.2	11	6
11	9511 沖縄電力	64.1	20.8	11	14.4	7	5.8	21	12.2	7	10.9	18	8
12	9533 東邦瓦斯	63.8	20.0	14	14.4	7	6.2	17	11.1	12	12.1	12	10
13	9509 北海道電力	63.1	20.9	10	13.9	10	6.4	14	10.4	19	11.5	14	16
13	9513 電源開発	63.1	19.3	15	13.5	12	6.7	6	10.9	15	12.7	9	11
15	9543 静岡ガス	61.4	21.4	7	13.8	11	6.2	17	11.7	10	8.3	21	13
16	9507 四国電力	59.8	19.2	16	11.9	19	6.5	11	11.1	12	11.1	16	15
17	9503 関西電力	59.7	17.9	17	12.8	17	6.6	10	10.7	16	11.7	13	21
18	9504 中国電力	56.9	16.7	21	12.9	16	6.0	20	10.6	18	10.7	19	18
18	9506 東北電力	56.9	17.1	19	11.4	20	6.5	11	10.7	16	11.2	15	17
20	9505 北陸電力	56.6	17.1	19	12.4	18	6.1	19	9.9	20	11.1	16	20
21	9501 東京電力ホールディングス	49.9	17.5	18	9.1	21	6.3	15	6.7	21	10.3	20	19
	評価対象企業評価平均点	64.56	20.41		13.74		6.53		11.68		12.20		

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業部門）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位		
			評価項目2 (配点 30点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 20点)			
	評価対象企業		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位		
1	5020 ENEOSホールディングス	75.8	22.8	2	16.2	1	6.8	1	15.2	1
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	71.3	22.9	1	15.4	3	6.3	5	13.3	4
3	1605 INPEX	68.2	21.4	3	13.5	4	6.8	1	12.9	4
4	5019 出光興産	68.1	21.3	4	13.5	4	6.5	4	13.2	3
5	1662 石油資源開発	67.8	20.4	5	15.5	2	6.7	3	11.8	5
	評価対象企業評価平均点	70.24	21.76		14.82		6.62		13.20	
									13.84	

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位					
			評価項目2 (配点 30点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 20点)						
			評価点	順位	評価点	順位	評価点		順位				
1	8174 日本瓦斯	76.4	25.0	1	16.2	1	7.1	2	14.4	1	13.7	1	1
2	9532 大阪瓦斯	71.7	22.1	3	15.3	2	6.7	4	14.2	2	13.4	3	3
3	9508 九州電力	68.1	22.5	2	14.1	6	7.4	1	11.5	6	12.6	5	9
4	9531 東京瓦斯	67.3	20.7	8	15.2	3	6.8	3	11.1	7	13.5	2	2
5	9502 中部電力	65.8	21.6	4	13.3	10	6.7	4	12.0	4	12.2	6	4
6	9511 沖縄電力	64.1	20.8	7	14.4	4	5.8	16	12.2	3	10.9	13	5
7	9533 東邦瓦斯	63.8	20.0	9	14.4	4	6.2	12	11.1	7	12.1	7	6
8	9509 北海道電力	63.1	20.9	6	13.9	7	6.4	10	10.4	14	11.5	9	11
8	9513 電源開発	63.1	19.3	10	13.5	9	6.7	4	10.9	10	12.7	4	7
10	9543 静岡ガス	61.4	21.4	5	13.8	8	6.2	12	11.7	5	8.3	16	8
11	9507 四国電力	59.8	19.2	11	11.9	14	6.5	8	11.1	7	11.1	11	10
12	9503 関西電力	59.7	17.9	12	12.8	12	6.6	7	10.7	11	11.7	8	16
13	9504 中国電力	56.9	16.7	16	12.9	11	6.0	15	10.6	13	10.7	14	13
13	9506 東北電力	56.9	17.1	14	11.4	15	6.5	8	10.7	11	11.2	10	12
15	9505 北陸電力	56.6	17.1	14	12.4	13	6.1	14	9.9	15	11.1	11	15
16	9501 東京電力ホールディングス	49.9	17.5	13	9.1	16	6.3	11	6.7	16	10.3	15	14
	評価対象企業評価平均点	62.80	19.99		13.42		6.50		11.20		11.69		

2021年度評価項目および配点(エネルギー)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (30点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明資料等における開示	
・ 決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・ 説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	2
(2)リスクと機会の情報開示	
・ 気候変動、疫病、自然災害や市況等に関するリスクと機会について十分に開示されていますか。	4
(3)リモートツールによる情報提供	
・ 新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供手段（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (20点)	配点
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・ コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示	
・ 中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (20点)	配点
①国内外の動向を踏まえ、統合報告書を中心にして非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	15
②事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	西川 周作	大和証券
	松本 繁季	野村證券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	岡三証券

評価実施アナリスト（17名）

安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	相馬 正欣	三井住友トラスト・アセットマネジメント
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	松浦 勇佑	丸三証券
神近 広二	SMBC 日興証券	松本 繁季	野村證券
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
佐久間 聡	QUICK	山崎 慎一	岡三証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。